

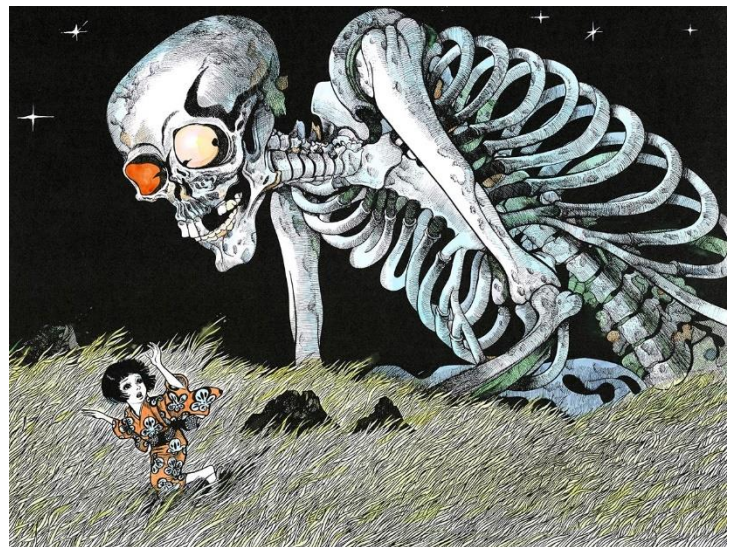
【報道関係各位】

くお化けたちはこうして生まれたく

百鬼夜行展

水木しげるの妖怪

水木しげる生誕100周年記念



広報
画像

①

《がしやどくろ》

佐川美術館では、水木しげる生誕 100 周年を記念し、「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展～お化けたちはこうして生まれた～」を秋季企画展として開催いたします。日本漫画界を代表する水木しげる(1922－2015)。漫画連載の傍ら、妖怪研究の様々な文献を紐解き、生涯にわたり数多くの妖怪画を描き続けました。本展では、百鬼夜行の名にふさわしく、水木の妖怪画 100 点以上を一挙公開する他、江戸時代の絵師・とりやませきえん鳥山石燕(1712－1788)の『画図百鬼夜行』、昭和初期の民俗学者・が ず ひゃっきや こう柳田國男(1875－1962)の『妖怪ようかい談義だんぎ』など、水木自身が所蔵する妖怪関係資料を初めて公開します。

代表作「ゲゲゲの鬼太郎」をはじめ多くの妖怪作品を生み出した水木しげるは、「妖怪」という言葉が一般に広がるきっかけを作っただけでなく、その後も長きにわたり妖怪ブームの原動力を担い続けました。現代の日本人に「妖怪」という文化を根付かせた水木が、どのように妖怪と向き合い、描いてきたのか、本展を通して妖怪を身近に感じ、今なお多くの人を魅了し続ける水木の世界観をご堪能ください。

展覧会実施概要

- ◆名 称：水木しげる生誕 100 周年記念「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展～お化けたちはこうして生まれた～」
- ◆会 期：2022 年 9 月 16 日 [金]～11 月 27 日 [日]
- ◆開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)
- ◆休館日：月曜日 (9/19、10/10 は開館)、9/20、10/11
- ◆入館料：一般 ¥1,200/高大生 ¥800 (要学生証提示)、中学生以下無料 (要保護者同伴)
※障害者手帳をお持ちの方 (要提示)、付添者 (1 名のみ) 無料

[主催]佐川美術館 (公益財団法人 SGH 文化スポーツ振興財団)、NHK 大津放送局、NHK エンタープライズ近畿
[後援]滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会 [企画協力]水木プロダクション [協賛]凸版印刷
[制作協力]NHK プロモーション [協力]SG ホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

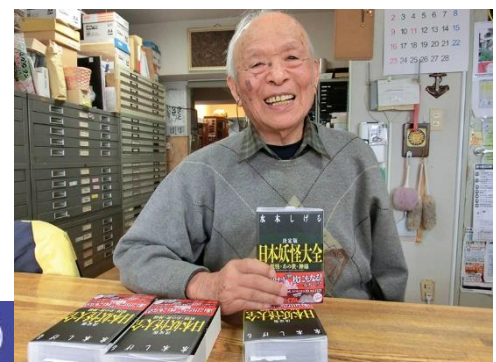
入館のご予約について

混雑緩和のため、本展は **WEB での事前予約(ネット決済による入館チケット購入)**が必要です。
「WEB 事前予約制」、「詳細な予約情報は HP をご覧ください」の 2 点を記事内に明記ください。

新型コロナウイルス感染状況に応じて、実施概要が変更になる場合がございます。
最新の情報については、必ず佐川美術館ホームページをご確認ください。

水木しげる 略歴

- 1922 年 3 月 8 日生まれ。鳥取県境港市で育つ。本名は武良茂。
- 1927 年 近所に住んでいた「のんのんばあ」にお化けや怪異の話聞き、関心をもつ。
- 1943 年 召集令状を受け、鳥取連隊に入隊。その後、激戦地であるラバウルに出征し、翌年、爆撃を受けて左腕を失う。
- 1946 年 前年に終戦を迎え、3 月に復員。
- 1950 年 神戸の水木通にあるアパートを月賦で購入し、「水木荘」と名付け、大家になる。紙芝居作家となり、苦しい生活を送る。
- 1954 年 前年に水木荘を売却し、兄家族とともに西宮に移り住む。鬼太郎作品の前身となる「蛇人^{じゃじん}」、「空手鬼太郎」などを紙芝居で描く。
- 1958 年 単身上京。貸本漫画家に活路を見出す。デビュー作「ロケットマン」が兎月書房より刊行。
- 1961 年 ^{いづかめ}飯塚布枝と見合いし、結婚。「墓場鬼太郎」や「悪魔くん」「河童の三平」などの代表作がこの年前後に描かれる。
- 1966 年 『週刊少年マガジン』に「悪魔くん」「ゲゲゲの鬼太郎」を連載。『週刊少年サンデー』に妖怪を紹介する「ふしぎなふしぎな話」を連載。
- 1973 年 実録戦記『総員玉砕せよ！』(講談社)発行。日本民俗学会に入会。民俗研究にも取り組む。
- 1977 年 エッセイ『のんのんばあとオレ』(筑摩書房)刊行。のちに NHK でテレビドラマに。
- 1991 年 紫綬褒章をうける。これまで発表した妖怪画をまとめた『日本妖怪大全』(講談社)刊行。
- 2010 年 文化功労者となる。妻・布枝の著書『ゲゲゲの女房』が NHK 連続テレビ小説に。
- 2015 年 11 月 30 日、多臓器不全のため死去。



広報
画像 ②

■ 展示構成

第1章 水木しげるの妖怪人生



広報
画像

③

《ベとベとさん》

漫画家にとどまらず、妖怪絵師であり研究家でもある水木しげるは、なぜこれほどまで妖怪にこだわり続けたのか？幼少期に、祈祷師の妻だった「のんのんばあ(※のんのん(仏)さんを拜むお婆さん)」にお化けや不思議な話を聞いた境港時代、生死を彷徨った従軍時代、貧困の貸本漫画家から一躍人気漫画家となった時代を通してその理由の片鱗を探ります。

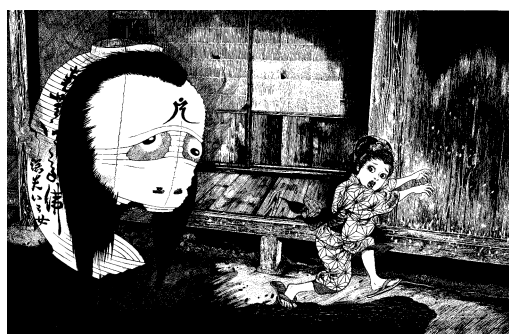
第2章 古書店妖怪探訪

古書店街を頻繁に訪れていた水木しげるは、民俗学や妖怪に関する書籍を探し、妖怪を描くことに繋げていました。本章では古書店で購入した鳥山石燕の『画図百鬼夜行』や柳田国男の『妖怪談義』をはじめとする、水木所蔵の妖怪関連書籍を展示します。



鳥山石燕 《震震》

第3章 水木しげるの妖怪工房



《提灯お岩》

晩年までに 1000 点近くの日本の妖怪を描いた水木しげる。本章では、水木による妖怪画の創作方法を「絵師たちから継承」「様々な資料から創作」「文字情報から創作」の3つのパターンに分けて紹介します。

第4章 水木しげるの百鬼夜行

水木しげるの妖怪画を存分に味わえる章として、「山」「水」「里」「家」それぞれに棲む妖怪ごとに展示します。水木が描いた妖怪画を心ゆくまでお楽しみください。

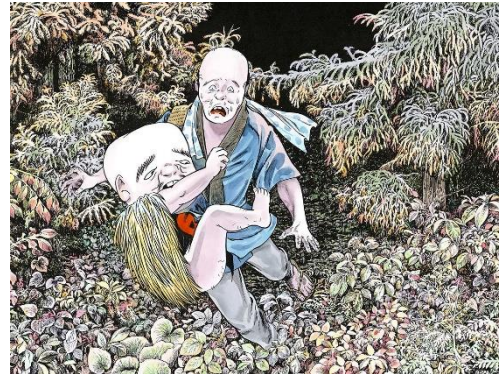


《ぬらりひょん》

みどころ

■水木しげるが描いた妖怪画、約 100 点が勢ぞろい

最晩年の 2014 年に妖怪画の集大成となる、『決定版 日本妖怪大全』を出版した水木しげる。生涯にわたり描いた妖怪画の数は日本の妖怪だけで実に 1000 点近くに上ります。代表作「ゲゲゲの鬼太郎」をはじめ、「河童の三平」「悪魔くん」などは幅広いファンに支持され、“妖怪ブーム”と称されるほどの社会現象を引き起こしました。時に恐ろしく、時にはユーモアあふれる姿で描かれた様々な妖怪にご注目ください。

広報
画像

4

《児啼爺》

■妖怪画制作の具体的な手法を初めて紹介

広報
画像

5

《一反木綿》

数多くの妖怪を描いた水木しげるの手法にクローズアップするのは、本展が初めての試みとなります。水木が妖怪画を描いた創作方法は、大きく 3 つに分けられます。まずは、古の絵師のデザイン及び名前を踏襲しつつ、独自の解釈を取り入れて描く「**絵師たちから継承**」する場合があります。

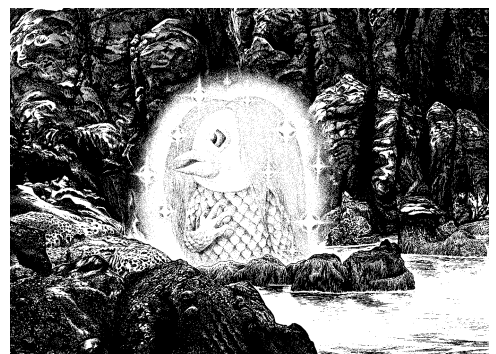
また、語り継がれてきた妖怪の情報をもとに、民族の仮面や祭礼装束などから、その妖怪に相応しいデザインを見つけ出し、「**様々な資料から創作**」することもあったと言います。

そして、古くから伝わる説話などの研究書から妖怪のイメージをつかみ、想像力を駆使して姿形を与えた「**文字情報から創作**」するケースもありました。

■妖怪文化の歴史に迫る

日本では古くから絵巻物や仏教絵画などに描かれてきた妖怪。とくに江戸時代には、怪談が庶民の間でも流行していたことから、出版技術の発展により、妖怪図鑑の先駆けとなる書籍が数多く刊行されました。さらに明治時代になると、妖怪を学問的にとらえる研究者が次々と登場し、日本各地に伝わる昔話などからその歴史を辿ろうとする動向があらわれます。

本展では、水木しげるの妖怪画を描く情報源となった、様々な文献や先人たちの妖怪研究の著作も紹介します。



《アマビエ》

※画像は全て©水木プロダクション

●広報用画像について

本プレスリリース中に掲載している画像データ(**広報画像と記載されているもの**)をご用意しております。画像データをご希望の方は、同封の**作品画像使用申込書(プレゼント用無料観覧券申込付)**に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

当館ホームページ(<https://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>)から画像申請も受け付けております。

その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご相談ください。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。トリミングなどの画像の加工はご遠慮ください。また、申込書に記載しておりますキャプションの表記もお願い致します。

原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要するため、お早めをお願い致します。

旅行会社さまへ

ツアー造成のためのパンフレット等への画像掲載は1点のみとなります。必ず、展覧会名称、会期、佐川美術館で開催の旨、ご記入をお願い致します。

●プレゼント用無料観覧券について

読者・視聴者・リスナーへのプレゼント目的にかぎり、本展覧会会期中有効の**無料観覧券を6枚**までご提供させていただきます。**(無料観覧券のご利用にはWEB予約が必要です。)**

ご希望の方は同封の**作品画像使用申込書(プレゼント用無料観覧券申込付)**に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

◆交通のご案内:

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由 (約 30 分)
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由 (約 30 分)
- 名神京都東 IC から湖西道路 (真野 IC)・琵琶湖大橋経由 (約 40 分)

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 35 分)
- JR 湖西線堅田駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 15 分)

◆連絡先◆

公益財団法人 SGH 文化スポーツ振興財団
佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL:077-585-7800/FAX:077-585-7810

企画担当学芸員：藤井 康憲 (ふじい やすのり)

y_fujii010@sagawa-artmuseum.or.jp

作品画像使用申込書（プレゼント用無料観覧券申込付）

佐川美術館 宛 FAX / 077-585-7810

申込日 2022 年 月 日

作品画像の露出・掲載等 ご使用にあたっての注意	● 申請された方法、目的以外には使用しないでください。 ● 掲載誌・紙は資料として 1 部以上お送りくださいますよう、お願い致します。 ● その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください。
使用作品 ※ご希望の作品にチェックを 入れてください。	☐ ① 《がしゃどくろ》 ©水木プロダクション ☐ ② 水木しげる ©水木プロダクション ☐ ③ 《ベとベとさん》 ©水木プロダクション ☐ ④ 《児啼爺》 ©水木プロダクション ☐ ⑤ 《一反木綿》 ©水木プロダクション 上記キャプションと下記著作権表記をお願いします。 「 ©水木プロダクション 」 原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要するため、お早めをお願い致します。 <u>計 点</u>
媒体名	
貴社名	
ご芳名(ご所属)	
ご連絡先	ご住所：(〒 -) メールアドレス TEL： FAX：
発行(掲出)予定日	年 月 日 号
使用形態(○印)	Web サイト / 印刷物(カラー / モノクロ)
無料観覧券希望枚数	読者プレゼント用として、 <u>無料観覧券 枚</u> ※ 枚数は 6 枚以内でお願いいたします。ご了承ください。 <u>無料観覧券のご利用には WEB 予約が必要です</u>